

6 教職員の在り方

「 仰げば尊し 我が師の恩 」

子供たちが畏敬の念をもって、師と仰ぐような教職員として、常に崇高な職務行動を貫く。子供たちに「私に似なさい」と堂々と言えるような凜とした美意識を貫く授業を展開する。

教職員に期待すること

価値付け 意味付け プラスワンの発想を！

自分にしかできない
オンリーワンの仕事を！

最も大切なこと	子供を愛する（ 高貴な生き方をする ）。 仕事を愛する（ 高貴な仕事と自覚する ）。	
期待することは	真摯な姿勢で仕事をする。仕事が生き甲斐である。 本校に勤務していることを誇りに思う。	
組織人として	教育ニーズを見つけ実行して解決する。 積極的に自律的な学校経営に参画する。	
人として	鋭い人権感覚をもつ。← 子供は未来の守護者、未来からの留学生 児童の人格、可能性を認め、笑顔で期待を示す。心で接する。	
教師として	研究と修養に努め、常に自分自身の資質の向上を図る。 使命感・熱意・指導力・実践力・統率力を磨く。	
職員として	先例がない、だからやる。 できない理由（言い訳）を考えない。 できない原因をつぶしていく。	

もとより、これらを具現化するのは教職員である。私たちは教育に携わるものとして、ふさわしい人格と教養を、そして教育専門職としての力量とを身に付けるよう、研究と修養に努めることはいうまでもない。それとともに、**教職員にとって大切なことは、心のもちよう**ではないだろうか。

同僚性

心の在り方

同僚性を高め、互いに居心地の良い空気感をつくる

- 1 心豊かに : ゆとりある教師の心は、子供たちに安らぎを与える。
- 2 愛情豊かに : 求める心よりも与える心を優先にして、温かく包み込む。
- 3 言葉豊かに : 相手の気持ちを常に慮れば、言葉は自然と優しくなる。
- 4 表情豊かに : 豊かな柔和な表情は、教師と子供の心を結ぶ絆である。

絶対に

やってはいけないこと

教員の「待つ姿勢」と「指導から逃げる」ことを混同しない

- 1 一人で事に当たろうとする : どんなプロでも一人で解決できることは少ない
- 2 まだ待てるかもしれない : 早期対応・迅速な対応を怠ると負の連鎖が始まる
- 3 大騒ぎをしたら恥ずかしい : 教員は一時の恥、子供の命を損ねたら永遠の損失
- 4 苦情を気にして指導を躊躇する : 指導ができなければ苦情程度では済まない
- 5 子供の「大丈夫」を鵜呑みにする : いじめも怪我も子供はみんな大丈夫と言いたがる

危機管理

「ちょっと変だなあ」「本当に大丈夫かなあ」の感覚を磨き、声に出して、行動する

落とし穴に陥らないために

「前例」「慣例」が不祥事や学校の危機を生む温床

サービスの
厳正

【学校の非常識】

外部と断絶
学校特有の文化
特有の行動様式
勘と経験と度胸

【学校を危機に陥らせる根源】

無自覚「え、だめなんですか」
甘い認識「たぶん、大丈夫だろう」
前例踏襲「前からやっていることだから」
三猿主義「見ざる、言わざる、聞かざる」

【危機を防ぐために】

社会の物差しを持つ
慣れ、独断を払拭
ローカルからの脱却
見られている意識